

令和 8 年度 第 1 回千歳市文化財保護審議会資料

日時：令和 8 年 8 月 12 日（水）午後 2 時

場所：千歳市役所第二庁舎 2 階 会議室 5・6

令和 8 年度第 1 回千歳市文化財保護審議会

日時：令和 8 年 8 月 1 2 日（水） 1 4 時

場所：第二庁舎 2 階 5・6 会議室

（１） 委嘱状交付

（２） 文化財保護審議会

1. 開会

2. 教育長挨拶

3. 委員自己紹介・職員紹介

4. 正副会長の選出

5. 議事

1. 報告 昨年度の業務報告及び今年度の取組み
2. 報告 美々貝塚の現状と他の貝塚施設について
3. 協議 市指定文化財の諮問及び答申

6. 閉会

令和7年度の業務報告

1. 保護保存

a. 包蔵地照会・・・・・・・・・・227 件

b. 事前協議・・・・・・・・・・14 件

c. 試掘調査（文化庁国庫補助事業）・・・・・・・・・・10 件

令和7年度では、各種開発計画に伴って、10件の試掘調査を実施した。このうち、4件・10か所で遺構・遺物を検出し、8か所について新たな遺跡として周知の埋蔵文化財包蔵地に登載した。この結果、千歳市の周知の埋蔵文化財包蔵地の数は370か所となった。

調査地及び調査結果については、以下のとおりである。

調査	新規	遺跡	登載番号	調査地	調査期間	調査面積 (試掘坑数)	遺構・遺物	時期
1		蘭越7遺跡	A-03-166	蘭越8-1他	6月9～13日 (5日間)	30㎡ (15か所)	土器6点	縄文時代晩期
2	◎	ウサクマイY遺跡	A-03-370	蘭越26-15他	5月19～29日 (9日間)	76㎡ (38か所)	剥片石器1点	縄文時代
	◎	ウサクマイZ遺跡	A-03-371				土器2点、剥片石器1点、礫石器1点	縄文時代
3		オサツ15遺跡	A-03-248	上長都382-2・301・303・339・344	5月12～16日、 10月20～30日 (14日間)	162㎡ (81か所)	竪穴住居跡2軒（炉跡1か所）、土器42点、剥片石器11点、礫石器4点、礫3点	縄文時代中期～後期
	◎	オサツ27遺跡	A-03-368				土抗1基、土器1点	縄文時代
	◎	オサツ28遺跡	A-03-369				剥片石器1点	縄文時代
4	◎	美々18遺跡	A-03-372	美々1292-25他	7月14日～8月6日、 8月18日～9月12日 (37日間)	446㎡ (223か所)	礫3点	縄文時代
	◎	美々19遺跡	A-03-373				礫1点	縄文時代
	◎	美々20遺跡	A-03-374				土器1点、礫1点	縄文時代晩期
	◎	美々21遺跡	A-03-375				Tビット1基、土器2点	縄文時代中期～晩期
5		駒里地区	—	駒里1045-5	4月21日～5月1日 (7日間)	70㎡ (35か所)	—	—
6		美々758番地区	—	美々758-193	6月23～24日 (2日間)	34㎡ (17か所)	—	—
7		東丘地区	—	東丘632-1・9、1444-1	6月30日～7月4日 (5日間)	36㎡ (18か所)	—	—
8		寿地区	—	寿3丁目3-7	8月7日 (1日間)	10㎡ (5か所)	—	—
9		上長都1121番地区	—	上長都1121-1の一部	9月29～30日 (2日間)	8㎡ (4か所)	—	—
10		幌加地区	—	幌加818-169他	3月16日 (1日間)	36㎡ (18か所)	—	—



美々21 遺跡 Tピット検出状況



オサツ 15 遺跡 堅穴住居土層断面

d. 工事立会・・・・・・・・・・14 件

e. 発掘調査・・・・・・・・・・1 件

遺 跡：ユカンボシ C2 遺跡（当時は遺跡隣接地）

調査期間：令和7年11月11～25日

調査面積：38 m²

市民から、ユカンボシ C2 遺跡の隣接地において、耕作作業中に遺構・遺物を発見したとの連絡があり、緊急的に記録保存を行った。調査の結果、遺構は土器集中が1か所、遺物は擦文土器を中心に合計113点が確認された。調査報告書はデジタルデータにて今年度中に公開する。

f. 包蔵地パトロール・・・・・・・・20 か所

主に千歳川左岸に所在する遺跡（末広遺跡やトメト川 1～6 遺跡など）を確認した。

g. 出土遺物の保存処理（内閣府国庫補助事業）

過年度の発掘調査で出土したアイヌ文化期の木製品・鉄製品・漆塗製品のうち、保存処理が未実施の遺物 380 点について、令和 7 年度から 3 年間で保存処理を行っている。令和 7 年度は、トメト川 3 遺跡出土の木製品 7 点、末広遺跡出土の漆製品 7 点の処理を実施した。

委託業者：株式会社吉田生物研究所



末広遺跡 墓坑出土 秀衡碗（復元）



末広遺跡 墓坑出土 碗（出土状態）

h. 上長都収蔵施設所蔵遺物の再整理作業

築 52 年となる上長都文化財収蔵施設の狭隘化・老朽化に伴い、移転を見据えた収蔵遺物の把握と圧縮化のための再整理作業を行っている。令和 7 年度は主に、収蔵されているコンテナの個数や、コンテナ内の遺物内容の把握を行った。令和 8 年度も作業を継続し、年度内に事業終了予定である。

i. 美々貝塚の貝層保護

市指定史跡である美々貝塚は、昭和 51 年に貝層断面を硬化する保護処置（タックス工法）がなされてから 48 年が経過したことで、経年劣化により硬化面が脆くなっており、部分的に貝層断面の崩落が始まっている。崩落を止めるための応急処置として、令和 7 年度に貝塚の 50～100 cm 外側を土のう袋で覆い、その中の貝層のレベルまで珪砂を充填する「土留め措置」を行った。

2.普及啓発

事業名		期間	対象	内容		人数等
1.常設展示来館者数						
来館者数	通年	一般		市内埋蔵文化財の展示		4,917人
2.体験学習会						
a.千歳・恵庭の遺跡を歩こう		R7.5.25（土）	小3～（対象未満でも保護者同伴で可）	恵庭市西島松2.3.5遺跡と千歳市キウス周堤墓群をバスとウォーキングで巡るツアー		27人
b.勾玉をつくろう		R7.7.13（日）	小3～（対象未満でも保護者同伴で可）	滑石を紙やすりで磨いてピカピカのペンダントを作成（R8.3.8のみ琥珀製）		109人
		R7.8.10（日）				
		R7.11.9（日）				
		R8.1.11（日）				
		R8.3.8（日）				
c.縄文土器をつくろう		成形：R7.9.20（土） 焼成：R7.10.19（日）	小3～（対象未満でも保護者同伴で可）	粘土から縄文土器を成形し、野焼きで仕上げる。		20人
d.縄文まつり		R7.9.27（土）	一般	貝輪づくり、勾玉づくり、ビビちゃんづくり、どんぐりクッキーづくり、石器づくり、火起こし体験、ミニ土器づくり、縄文アイヌ刺繍の各種製作・体験コーナーを開催。		171人
e.キウスクエスト		R7.10.11（土）	一般	弓矢、石器使用、お祈り、土器パズル、魚釣りの各種体験と、縄文人・旧石器人から出されるクイズに答えながらゴールを目指すイベント。		25人
f.石器をつくろう		R7.12.14（日）	中学生以上	黒曜石で尖頭器をつくる。		10人
g.块状耳飾りをつくろう		R8.2.8（日）	小3～（対象未満でも保護者同伴で可）	滑石に黒曜石製のドリルで穴をあけ、黒曜石製の剥片で刻みを入れ、トクサで磨いて块状耳飾りをつくる。		22人
3.見学会						
a.ガイダンスセンターへ行こう		R7.5.3（土） R7.5.4（日）	小3～（対象未満でも保護者同伴で可）	R7.4.25にオープンした「史跡キウス周堤墓群ガイダンスセンター」へ学芸員と行くバスツアー		28人
b.キウス見学会		R7.5.11（日）	小3～（対象未満でも保護者同伴で可）	史跡キウス周堤墓群と埋蔵文化財センターをボランティアガイドと一緒に巡るバスツアー		12人
		R7.6.8（日）				
		R7.7.13（日）				
		R7.8.10（日）				
		R7.11.9（日）				

2.普及啓発

事業名	期間	対象	内容	人数等
c.キウス・ウポポイ歴史の旅	R7.6.14（土） R7.11.15（土）	小3～（対象未満でも保護者同伴で可）	史跡キウス周堤墓群と埋蔵文化財センター、ウポポイを学芸員と一緒に巡るバスツアー	72人
d.史跡見学会	R7.8.23（土）	小3～（対象未満でも保護者同伴で可）	史跡キウス周堤墓群と史跡北黄金貝塚、だて歴史文化ミュージアムを学芸員と一緒に巡るバスツアー	22人
4.講演会				計154人
a.ちとせの発掘最前線2025	R7.4.5（土）	一般	令和6年度に市内で実施された試掘、発掘調査の成果を発表する講演会。 講師：福井淳一氏、酒井秀治氏、影浦寛氏（北海道埋蔵文化財センター） 大江克己氏（国立アイヌ民族博物館） 和田由希絵（千歳市埋蔵文化財センター）	130人
b.千歳市と周辺地域の擦文文化	R7.8.2（土）	一般	企画展「ちとせの擦文－擦文ってどんなもん？－」にちなみ、擦文研究者による講演と企画展の解説。 講師：榊田朋広氏	24人
5.企画展				計3,420人
a.動物形土製品の実物展示	R7.6.6（金）～13（金）	一般	重要文化財「動物形土製品」（愛称ビビちゃん）の実物展示。	1,062人
b.ちとせの擦文－擦文ってどんなもん？－	R7.7.14（月）～9.30（火）	一般	千歳市で出土した擦文土器を中心に、初心者向けに擦文時代について紹介。	1,795人
c.あなたのそばの遺跡たち～千歳市内の遺跡紹介～	R8.1.8(木)～3.26（木）	一般	令和2年度からのシリーズ展。令和7年度は、未広遺跡を特集。	563人
6.出前授業				計5回
a.遺跡から見た千歳の歴史	R7.6.28（土） R7.8.9（土） R7.8.10（日） R7.12.6（土）	一般	旧石器時代からアイヌ文化期の千歳の遺跡や遺物についての通史的な講話	4回
b.世界遺産キウス周堤墓群ってなんだろう？	R7.8.24（日）	一般	キウス周堤墓群について、今までわかったことや謎に包まれた部分を紹介	1回
c.勾玉をつくろう！		一般	滑石を紙やすりで磨いてビカビカのペンダントを作成	0回
7.第二小学校連携事業				計12回
a.ふるさと教育	R7.7.10（木） R7.7.18（金） R7.9.25（木） R7.9.30（火） R7.10.7（火）	6年生	千歳の縄文、キウス周堤墓群について、座学、見学、体験を通して学ぶ。	5回

事業名	期間	対象	内容	人数等
b.縄文クラブ	R7.5.12（月）	4～6年生	クラブ活動として、縄文時代や考古学に関する体験、制作を行う。	7回
	R7.5.26（月）			
	R7.6.23（月）			
	R7.7.7（月）			
	R7.9.22（月）			
	R7.10.20（月）			
	R7.10.25（土）			
8.市民協働プロモーション事業				
a.ボランティアガイド	R7.4.25（土）～11.23（日）	一般	史跡キウス周堤墓群ガイダンスセンターに毎日常駐し、定時ガイド及び予約ガイドを行う。（実施団体：キウス周堤墓群を守り活かす会）	3,304人
b.縄文フォーラム	R7.11.16（日）	一般	令和7年度は、「外から見た・感じた！縄文遺跡群の魅力を再発見～日本・世界の世界遺産と比べて～」と題し、国内外の事例を交え、縄文遺跡群、キウス周堤墓群の魅力や価値に迫っていくフォーラム。 講師：坂本尚史氏（北海道埋蔵文化財センター） 澤田慶子（洞爺湖町教育委員会） 和田由希絵（千歳市埋蔵文化財センター） 発表：第二小学校6年生有志	107人
9.キウス周堤墓群				
a.市内小中学校の来訪	R7.5.29（木）高台小6年	生徒	職員及びボランティアガイドで対応	9校
	R7.6.24（火）桜木小6年			
	R7.7.1（火）向陽台小4年			
	R7.7.10（木）駒里小5・6年			
	R7.7.22（火）日の出小4年			
	R7.9.19（金）東千歳中2年			
	R7.9.22（月）北栄小3年			
	R7.9.25（木）第二小6年			
R7.10.14（火）祝梅小4年				
b.市外小中学校の来訪		生徒		0校
c.全来訪者数	R7.4.25（土）～11.23（日）	一般		8,747人

事業名	期間	対象	内容	人数等
10.講師派遣				
a.学校	R7.6.25 (木) みどり台小6年 R7.8.27 (木) 北栄小3年 R7.12.12 (金) みどり台小よつぱルーム	生徒	各学校で縄文、キウス周堤墓群の授業	3校
b.その他	R7.8.27 (水) 科技大タウン トーク R7.10.26 (日) 科技大学祭 R7.12.14 (日) 科技大カンファレンス	一般	各場所縄文、キウス周堤墓群、動物形土製品についてのトーク。	3回

美々貝塚の現状と他の貝塚施設について

1 概要

①史跡の位置

美々貝塚は千歳市美々758 番地に所在する。千歳市環境センターの南 350m、美々川最上流部の樹枝状に開析された台地の中で、北東側に張り出す細尾根状の段丘崖縁に位置する。史跡の西側は南北に走る JR 千歳線によって大きく切られ削平されている。台地の標高は 20～23m、現海岸線（太平洋）からは 17 kmほど内陸となる。

②調査・整備年表

年	調査・整備	調査面積	担当者	特記事項
T12～S9 年 の間	第 1 次調査	—	苫小牧東尋常高等小 学校郷土部	貝塚発見の経緯を記載
S9 年	第 2 次調査	試掘程度	名取武光・河野広道	「美々式」設定。綱文式と平行
S38 年 10 月・ S39 年 4～5 月	第 3・4 次調査	14.8 m ²	松下 亘・近堂祐弘・ 米村哲英・君 尹彦・ 本田栄作・藤村久和	・火山灰の同定と遺物との出 土位置関係 ・柱穴様土坑の存在 ・出土土器の型式認定 ・赤色顔料の入ったカキ貝殻
S39 年	整備①	—		観察小屋の設置
S50 年 8 月	第 5 次調査	92 m ²	佐藤一夫・大谷敏三・ 宮夫靖夫・工藤 肇	・柱穴様土坑の再確認 ・貝塚形成時期の解明
S50 年 11 月	整備②	—		保護施設の建設
S51 年 5 月	整備③	—		貝層保護のための硬化処理
S52 年 4 月	市史跡指定	—		

③これまでの発掘調査の主な成果

《地形と土層》

- ・周辺火山の降灰分布図とともに貝塚に堆積している火山灰の同定が行われた【4 次調査】。貝層は樽前 D 火山灰（約 9000 年前）と C 火山灰（約 2500 年前）に挟まれ、さらにその間の黒色土下部に堆積

《貝塚と遺構》

- ・遺跡の範囲は、台地東端の東西 90m、南北 190mほど
- ・台地の縁辺部に大小 4 つの貝塚の存在が示された（1・5 次調査では未確認）
- ・最大の貝塚 S-1 は径 15m 程の範囲で地表から 50～60 cm 程の高まりとなっており、貝層は最も厚いところで 110 cm の堆積。他の 3 貝塚は小規模。S-3 貝塚の厚さは最大で 34 cm【5 次調査】
- ・貝塚から離れた台地のやや内縁部では竪穴住居様の落ち込みを発見（F9 区）【5 次調

査】

- ・S-1・3 貝層の下及び周辺の黒色土に柱穴状の小土坑を複数発見。平地式住居の可能性を言及【4次調査】。C20区以外、人為的なものとする根拠なし【5次調査】

《貝層》

- ・貝層中に5～10 cmの灰層が複数あり、貝塚上で火を焚いた痕と推定【4・5次調査】
- ・貝層中に水磨された恵庭a軽石のまとまりがあり、容器状のもので土ごと貝をすくって採取し、選別後廃棄されたと推定【5次調査】
- ・貝塚の末端部が部分的に分断され畝状となっている【4・5次調査】

《出土遺物》

- ・出土土器の特徴（丸底・中厚・繊維土器）から「美々式」を設定し、綱文式平行と推定【2次調査】。静内中野式の地方形と推定【4次調査】静内中野式の一つと認定【5次調査】
- ・特徴的な石器として、二等辺三角形で基部が内湾する石鏃、縦型のつまみ付きナイフ、石斧の他に多数の石錘、平坦面に擦痕のある「手持石杵」が出土
- ・貝類は14種ある。ヤマトシジミが圧倒的に多く、次いでアサリ、マガキ、ウネナシトマヤガイが多い。アカニシ、ウネナシトマヤガイ、ニホンタガソデモドキの存在から温暖な気候であったと推定【4・5次調査】
- ・魚類はボラ（暖流系）とウグイが主体でガンキエイ類、スズキ、ニシン、サケ類、カレイ類がある。内湾性のものが多く、石錘を使った網漁を推定【4次調査】
- ・哺乳類はシカ骨が圧倒的で他にイヌ、ドブネズミ、トド。シカをはじめとして破碎されたものが多い。シカの捕獲時期は秋～春と推定【5次調査】
- ・鳥類はウ類が主体的で、ガン・カモ類、アビ類、カイツブリ類がある【5次調査】
- ・貝類以外の自然遺物の量は中位の段ボール2箱分。魚類と哺乳類で1箱ずつ。鳥類は少量【5次調査】

《遺跡の形成年代と性格》

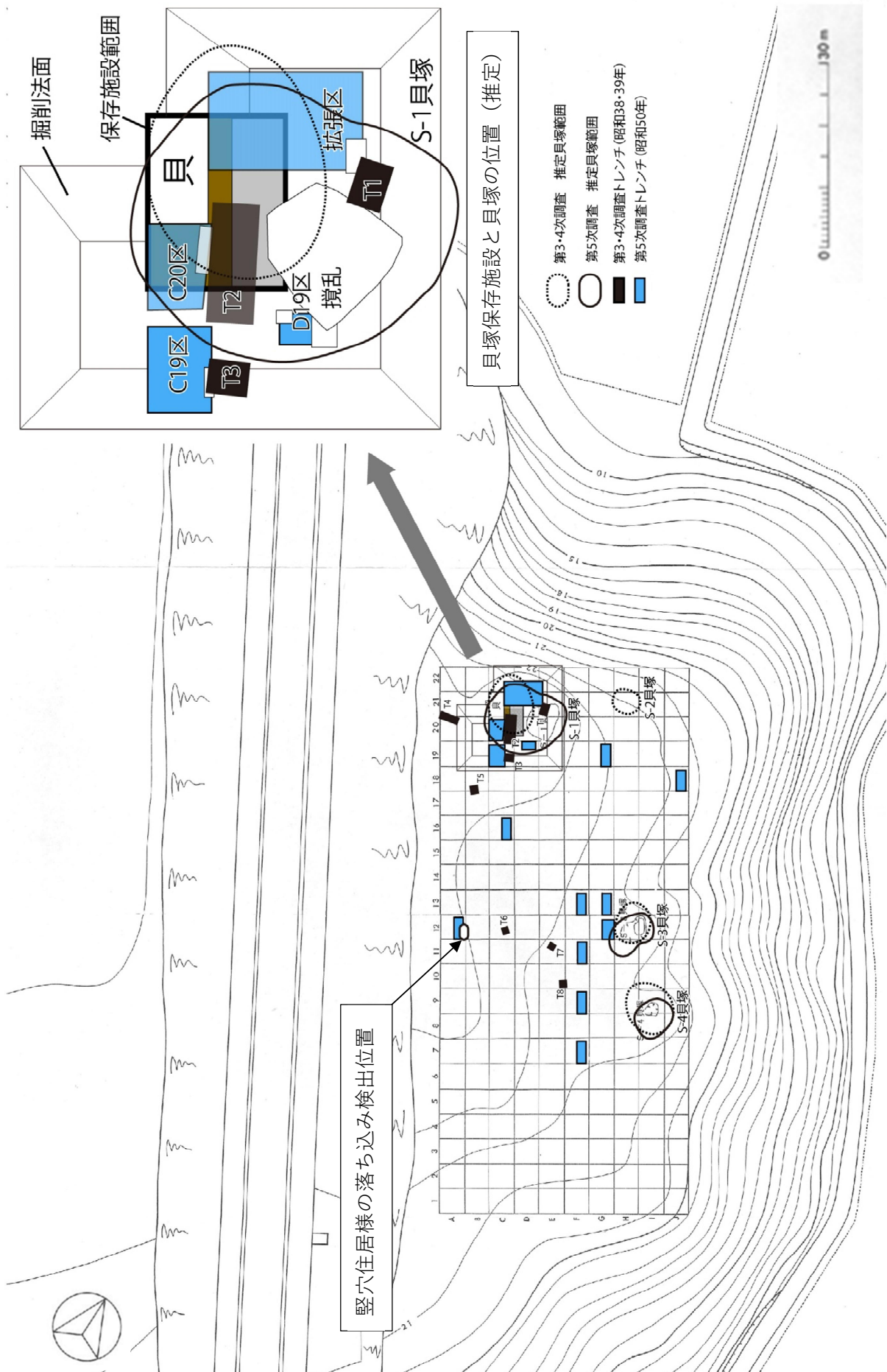
- ・貝層形成時期：4500年前と推定【4次調査】。前期前半の6000年前と推定【5次調査】
- ・冬期に利用・残された季節的な遺跡と解釈【4次調査】

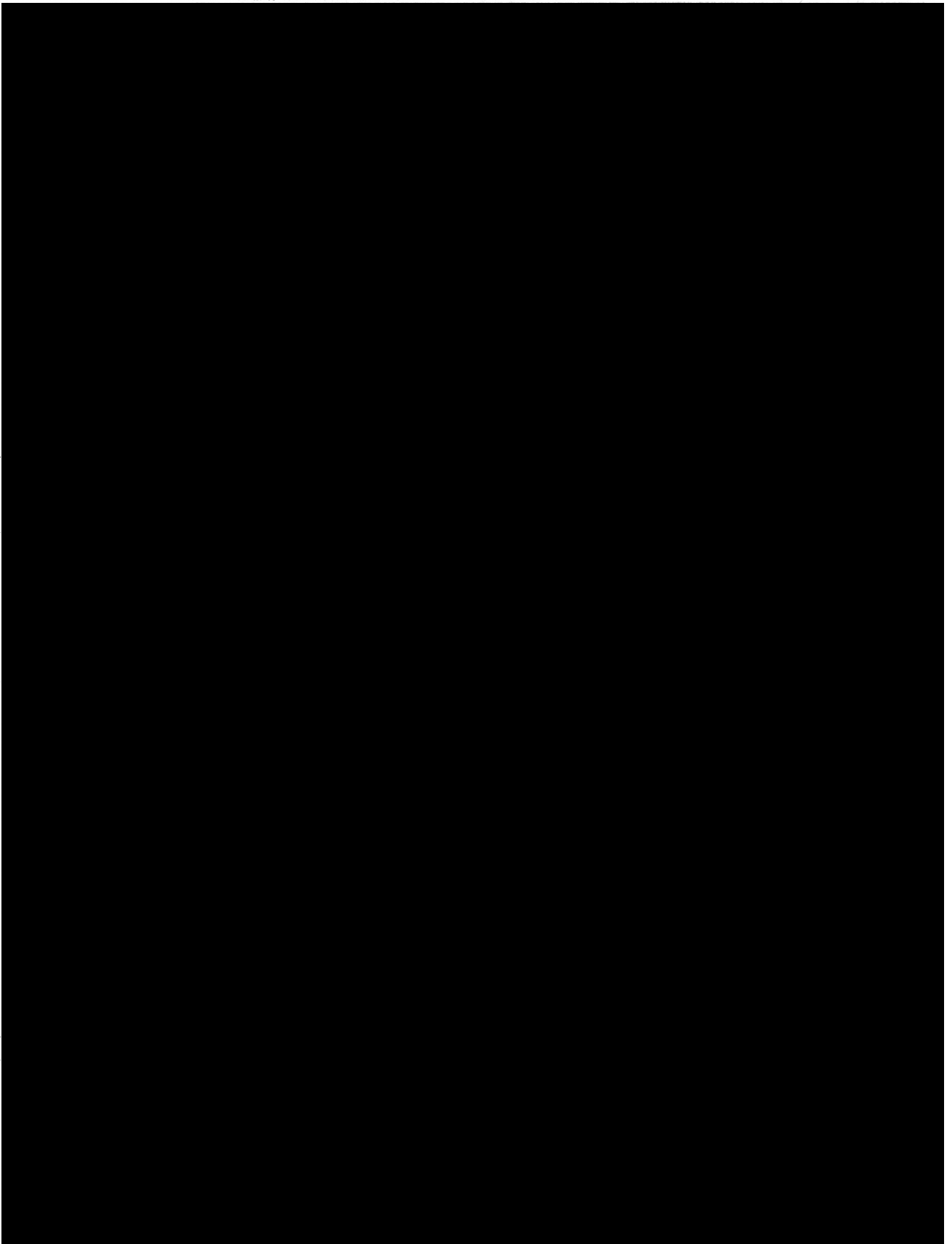


保存処理が完了した貝層断面



第5次調査出土資料





千歳民報
昭和 51 年 5 月 26 日

日刊建設情報
昭和 51 年 5 月 28 日

2 美々貝塚の史跡指定の状況

①指定の状況

指定年月日：昭和 52（1977）年 4 月 23 日

指 定 理 由：北海道で現在の海岸線から最も内陸に位置し、低鹹性（ていかんせい：塩分の低い状態）貝塚として知られ、縄文海進・海退を研究するうえで考古学及び地質学上重要な価値を有する。

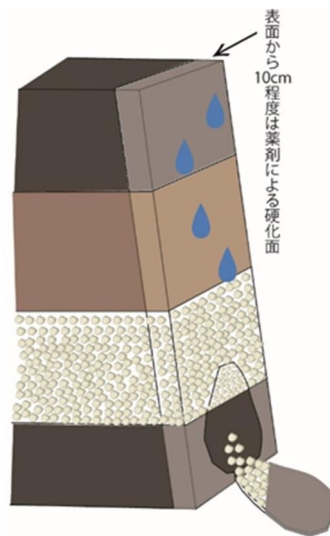
3 美々貝塚の現状と課題

	現状	課題
1	貝塚以外の遺構がほとんど発見されておらず、遺跡全体の構造が不明瞭	低地部も含めた広範囲の範囲確認調査の必要がある
2	S-2 貝塚の位置が不明	
3	保存施設と発掘調査区との正確な位置関係が不明	建設図面等を精査し、発掘調査との位置関係を把握する必要がある。その上で S-1 貝塚の残存部位と残存率を把握し、貝層保存を検討する材料とする必要がある
4	これまでの発掘調査等により S-1 貝塚は全体の 3/4 以上失われている可能性がある	
5	S-1 貝塚は、現地で <u>本物の貝層を露出展示</u> している。これは国内でも数カ所しかない稀有な展示方法である。 ただし、上屋がかかっているものの、貝層断面は周辺の地形と繋がっており、土中の水分は野外と連動している状態である。	経年劣化と土壌の凍結融解により、貝塚断面の硬化面が劣化し、一部破損・崩落しており、早急に短期的な措置を実施し、中・長期的な貝塚展示・公開のあり方を決定する必要がある
6	湿気により貝層断面にカビやキノコが見られる	湿気対策を行う必要がある
7	経年劣化により貝塚断面の土層本来の色味が失われ、白色の付着物が見られる	白色付着物の特定を行い、除去・対策をする必要がある
8	露出展示で貝層中に堆積している灰層や種々の遺物が明示されていない	断面に遺物や土層の名称を付すなど、貝塚に対する理解をより深めてもらう工夫をする必要がある
9	史跡内の植栽が大きくなり、周辺の地形等が分かりづらく、当時の海岸線が想定しにくい	整備の方向性を検討し、必要であれば、台地の縁辺が見通せるよう、樹木の剪定や伐採を行う必要がある
10	史跡への案内が少なく、特に国道 36 号からの入り口が分かりづらい	交通誘導に対する方法を検討する必要がある
11	本質的な価値が定められておらず、史跡指定理由を元にした解説に留まっている	現代的な視点から史跡の本質的価値を定める必要がある

4 令和の保護措置前の現況



東壁崩落状況（R4. 8. 26 撮影）



南壁崩落状況（R4. 9. 26 撮影）

- ・断面表層の硬化面が劣化し、特に薄い部分が破れ、内部を含めてえぐれるように崩落している。
- ・崩落により内部の土層が露出しており、土壌の凍結融解で更なる崩落が起きる恐れがある。

5 令和7年度に実施した保護措置と3D測量

1. 貝塚周辺の50 cm前後外側に土嚢を2列囲う様に積み上げ。
2. 貝層と土嚢の間を不織布で覆い保護。
3. 貝層と土嚢の間に珪砂を充填。

※現在保存施設内の温湿度を計測中。以前よりも湿度が高いため、月に一度程度換気のため出入り口の扉を日中開ける措置を行っている。





土嚢積み上げ、珪砂充填状況（R5.11下旬）

6 他の貝塚公開施設について

○2014 年に奈文研が調べた日本全国の貝塚数は 3946 か所。

○その内、貝塚を現地で公開している施設は 50 か所ほどか。

○公開の方法は主に以下の 5 通り

- ①現地直接公開型・・・貝層に保護措置を行い、現地で本物の貝層を公開（以前の美々貝塚、東京都大森貝塚、千葉県加曽利貝塚北貝塚、静岡県蜷塚貝塚、愛知県吉胡貝塚など）全国的に少数派
- ②現地剥取り設置型・・・剥ぎ取った貝層を現地で本物に近い状態で公開（苫小牧市植苗貝塚、洞爺湖町入江貝塚、福島県浦尻貝塚、茨城県上高津貝塚、千葉県加曽利貝塚南貝塚、埼玉県水子貝塚など）多数派
- ③現地直接＋剥ぎ取り併用型・・・貝層の一部のみ本物を公開、その他の大部分で剥ぎ取りした貝層を公開（千葉県西の城貝塚）極少数派
- ④現地原寸大印刷物設置型・・・貝層の写真を陶板に印刷し、現地で公開（愛知県貝殻山貝塚）極少数派
- ⑤剥ぎ取り移動展示型・・・剥ぎ取った貝層を場所を移動して博物館の展示室などで公開（美々貝塚北遺跡、伊達市北黄金貝塚、青森県二ツ森貝塚、青森県長七谷内貝塚、岩手県崎山貝塚、東京都中里貝塚、千葉県取掛西貝塚など）大多数



公開方法①
千葉県加曽利貝塚
北貝塚



公開方法①
愛知県吉胡貝塚



公開方法②苫小牧市植苗貝塚



公開方法②茨城県上高津貝塚



公開方法②埼玉県水子貝塚



公開方法③千葉県西の城貝塚



公開方法④
愛知県貝殻山貝塚



公開方法⑤東京都中里貝塚



公開方法⑤青森県ニッ森貝塚

市 指 定 文 化 財 調 書

種 別		有形文化財	名 称	磨製石棒／千歳市中央地区出土
所有者氏名			所有者住所	
文化財の所在地		所有者と同じ	出土遺跡／発見場所	千歳市中央(所有の土地)
時 期		縄文時代後期後葉	発見の経緯	表採
形 状	長さ	93cm	重量	3,200g
	径	4.5cm	材質	変成を受けた堆積岩の一種
	体部はよく研磨され、両端には瘤状に成形された四角形の頭部があり、文様が施されている。 頭部の下には3条の沈線が施され、頸部を作り出している。 頸部には直径1cm小穴があげられている。 ベンガラが付着している。			
指 定 し よ う と す る 理 由		現在までに日本国内で発見されている細形石棒のなかでは最大級である。 破損もなく完形品であり、縄文時代後期後葉の精神性を表す考古資料として極めて重要なものと考えられる。		
適 用		発見の経緯 昭和52(1977)年、史跡キウス周堤墓群から北東3km、標高120mの馬追丘陵の尾根で、土地所有者の がブルドーザーで作業道造成中に削平した法面から発見された。		

表:全体



表:頭部拡大



頭部A



頭部B

裏:全体



裏:頭部拡大



頭部A



頭部B